

# プランクトンネットを使って 季節のプランクトンを 観察しよう！



監修：学芸員 鈴木隆仁



## 採集のしかた

### プランクトンネットの投げ方



・利き手（投げる側）と反対の手首に、ロープ先端に輪を作り、抜けない程度に締めます。その後、手のひらに数回巻きつけます。



・準備が整った状態



・水に落ちた時のため、救命用の浮き輪ヒモの先端を、ベルトなど体に結び付けておきます。



・投げる側の手をピストル型にし、ネット上部のヒモをつかみます。この時、ネットの開口部側から3本出ているロープのうち、自分側に1本、奥に2本の状態で持ちます。

※投げ方は人により異なりますが、ここではカイツブリ型（鈴木考案）を紹介します。



・カイツブリが頭をもたげたような形になるように、奥側から下のケースを持ち上げ、根元のロープを親指と人差し指でつまみます。

※写真ではコックが開いています。このまま投げると全部流れるので、注意しましょう。

## 環境学習の内容

身近な水辺にいるプランクトンを採集し、観察してみましょう。季節によって、生息するプランクトンが変わっているのを知ることができます。

自ら採集して観察することで、目の前の水の中に様々な生き物が存在し、それを調べるためにどのような手段が必要なのかを体感できます。



## 野外活動での注意

- ・使用の際は、指導者のもとで実施してください。  
けっして子どもだけで使わないでください。
- ・事前に使い方を確認してから使用してください。
- ・フィールドは日影が少ないので熱中症に注意しましょう。
- ・引っ掛けやすいアクセサリーなどは外し、池や湖への転落に注意しましょう。
- ・足元が滑りやすいので運動靴などで行いましょう。

## 必要な道具

### 採集の道具



○プランクトンネット ○プラスチックBIN (500ml)

・バケツ (15L程度。口が直径 20 cm以上)

・雨具（合羽） ○浮き輪（コルクタイプの救助用）

### 観察の道具



※生物顕微鏡：プレパラート標本を観察するタイプ

実体顕微鏡：シャーレで立体的に観察するタイプ

（接眼レンズは10倍として、対物レンズは最小0.8倍程度。最大4倍程度あればよい。）

○シャーレ（直径 15 cm程度）

○スプーン

○スライドガラス

・紙（シャーレやスライドガラスを拭くためのキムタオルや、レンズを拭くためのレンズペーパーなど）

○印の道具は貸し出しセットに付属しています。

・印の道具は各自で準備してください。

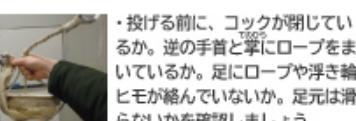
※生物顕微鏡と実体顕微鏡は選択できます。

### プランクトンネットについて

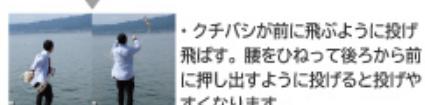
①下部ケースのコックは縦で閉じ、横で開きます。

②目が細かく詰まりやすいので、使い終わったら外から内に水を通すように洗います。

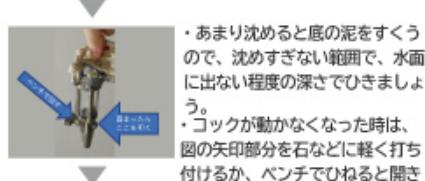
③プランクトンネットを投げるときは、周囲に人がいないことを確認しましょう。（手を放すと後ろへ飛んでしまうことがあります。）



※カイツブリのような形になればOK



※絶対に湖に落ちないように気を付けましょう。



・あまり沈めると底の泥をすくうので、沈めすぎない範囲で、水面に出ない程度の深さでひきましょう。

・コックが動かなくなったら時は、図の矢印部分を石などに軽く打ち付けるか、ベンチでひねると開きます。

・採集したプランクトンはプラスチックBINに入れます。

### こんな時はどうする？

#### ●風でネットが戻ってくる！

⇒斜め前に投げることで風の力をそらします。

#### ●プランクトンネットが湖に落ちた！

⇒釣り竿か棒で、ロープが浮いているうちに回収しましょう。

#### ●自分が落ちた！

⇒落ち着いて浮き輪のヒモをたぐり、浮き輪につかまって泳ぎましょう。

## 顕微鏡で観察してみよう！

琵琶湖にはこんなプランクトンがいるよ。



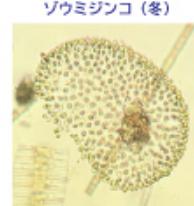
アクラコセイラ (1年中)



ゾウミジンコ (冬)



オオミドリミシ (夏)



ウログレナ (春～夏)



ビワクンショウウモ (春～夏)

顕微鏡の操作については各取扱説明書をご覧ください。

## お問合せ・返却先

滋賀県立 琵琶湖博物館 環境学習センター

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

TEL:077-568-4813

ecolo@pref.shiga.lg.jp

